

森の力

一二三朋子

森は単なる木々の集合體にあらず。木々は對話し、相互扶助さへも行ひてをるなり。それを可能にするは、「母なる木（マザーツリー Mother Tree）」と「菌根網（菌根ネットワーク Wood Wide Web）」の存在なり。

「母なる木」とは、森の中の老齡なる巨木なり。周囲の若木に、炭素・水分などの栄養分を供給す。かつ、森の通信網の中心として、害蟲及び病氣の警告信號の送受信を行ふとの由。一本の母なる木、貳百五十本以上の若木とつながりてありとの報告もあり。母なる木の枯死により、周囲の若木の生存率、大幅に下がるほど、母なる木の存在は、森の生態系維持に不可欠なる存在なり。

驚くべきことに、自身の子孫を識別し、優先的に栄養を與ふるなり。母なる木、枯死に及ばむとするときには、これまでの経験より得たる環境耐性などの情報を、菌根網を通じて子孫たちに一齊に送信すといふ。

菌根網とは、木々の根の周りに、目に見えざるほど細い菌絲、何百キロメートルにもわたりて張り巡らさるる網なり。この菌絲なむ、異なる個體、さらには異なる種の樹木同士をつなぎ、母なる木の栄養分の分配、情報傳達などの役割を果たすなる。

母なる木と菌根網との存在により、森は全體としての回復力を高むるなり。厳しき環境下には、一本の木の獨占的成長より、多様な木々が菌根網にてつながり支へ合ふことにより、病ひを避け、氣候變動に對する耐性を強むることを得。たとへ一本の木、倒るとも、かくなる關係の維持せらるれば、森全體の崩壊は免るるなり。

母なる木なむ、古來伐採の標的とせられたる。大なる木ほど木材としての價值、高き故なり。母なる木の伐採により、地中の微生物及び炭素貯藏量減り、生態系壞れ、森林の多様性の少なき構造へと變はるなり。

效率的收穫のために母なる木を切り倒し、一齊に同じ種類の木を植うる「皆伐」は、この古くからの相互扶助の生態系を破壊す。相互扶助の生態系を失ひたる若木・苗木は、孤獨の中に脆弱となり、病氣や害蟲に對して無防備となるなり。

「自然界は弱肉強食の冷酷なる競争の場なり」。なれど、實際の自然界は、さにあらず。思ひ遣り溢るる世界なり。つながりの中に助け合ひ、分け合ふことこそ、何億年もの歳月を生き抜きぬる生命たちのたどり著きし、最も合理的かつ強靱なる「生存の智慧」ならめ。

【参考文献】

『マザーツリー 森に隠された「知性」をめぐる冒険』（貳〇貳三）スザンヌ・シマード 三木直子譯 ダイアモンド社

（令和八年四月貳十五日受附）